

## 事例

# 両側声帯麻痺による嚥下リハビリ入院

高橋さん（84）は自宅で転倒し、大腿骨を骨折。その際、両側の声帯麻痺を発症し、嚥下障害となりました。急性期病院で手術を受け、その後、当院へ「嚥下リハビリ入院」希望で転院されました。

## Q. リハビリで印象に残っていることは？

言語聴覚士による嚥下訓練や、発声練習、呼吸練習を通じて声の質が改善しました。家族からも「聞き取りやすくなった」と言ってもらえ、リハビリの効果を実感しました。ここまで声を出すリハビリも初めてでした。

また、理学療法士による座位姿勢の評価や、歩行練習、筋力トレーニング、作業療法士による手指動作の練習などもありました。午前と午後のリハビリがあり、私に必要なプログラムを組んでいただきました。

## Q. 入院生活はどうでしたか？

入院中のリハビリは午前と午後であり、嚥下体操や嚥下レクリエーションなどにも参加しました。嚥下障害をもった他の患者さんとの交流もできました。カンファレンスでは、自宅へ戻って、生活するための支援もあり、専門職のアドバイスから在宅での生活をイメージすることができました。嚥下リハビリ病棟のスタッフの「嚥下障害を良くしてやろう」との思いがひしひしと伝わってきて、「自分も頑張らなくては」との強い気持ちになりました。本当にお世話になり、感謝しています。



ゼリー食

通常食

入院前は、胃瘦と嚥下訓練の際にゼリーを1個食べる程度でしたが、当院に入院してからは、嚥下機能の検査を実施後、ゼリー、ペースト食から段階的に食事が始まり、通常食・米飯までステップアップができて、胃ろうも閉鎖することができました。「食べたいという目標があるから頑張れた」と高橋さん。嚥下機能が回復し、約1か月の入院でご自宅へ退院されました。

- ・ 介入事例は、ご本人様の許可を得て掲載しております。内容の無断転用・転載はご遠慮ください。
- ・ 事例は効果を保証するものではありません。嚥下リハビリの適用には条件があります。また、患者様の状態によっては、経口摂取が難しいと判断される場合もあります。

医療法人 錦秀会

**阪和第二泉北病院**

〒599-8271 堺市中区深井北町3176番地

詳細は、お電話で「嚥下リハビリ入院」  
についてとお気軽にお問合せください

☎ **072-277-1401**

(電話受付：平日：9：00～16：45)

